

第 3 回安曇野市消防委員会 会議概要

- 1 審議会名 安曇野市消防委員会
- 2 日 時 平成30年3月19日 午後6時00分から午後7時30分まで
- 3 会 場 本庁舎3階 306会議室
- 4 出 席 者 丸山一雄委員長、金盛順一委員、松田政治郎委員、小穴裕司委員、
高橋博明委員、丸山雅夫委員、曾根原清委員、布山明廣委員、飯田國隆委員、
鳥羽昌弘委員、山田稔委員
- 5 市側出席者 古幡危機管理課長、竹内係長、中田主査、増田主査、大倉主任
- 6 公開・非公開の別 公 開
- 7 傍聴人 0人 記者 0人
- 8 会議概要作成年月日 平成30年3月31日

協 議 事 項 等

- 1 会議の概要
- 1 開会
 - 2 委員長あいさつ
 - 3 会議（報告）事項
 - (1) 平成29年度事業報告と平成30年度事業計画について
 - (2) 今後の検討課題についての意見交換
 - (3) その他
 - 4 閉会
- 2 審議概要
- (1) 平成29年度事業報告と平成30年度事業計画について
平成29年度事業報告と平成30年度事業計画、平成29年度の消防団出動状況について事務局より説明。
 - (2) 今後の検討課題について
今後の消防委員会での検討課題について事務局より説明。

丸山委員長：ここまでで何か質問や意見等あれば質疑をお受けする。

鳥羽委員：少し会議資料に補足をしたい。正副団長3名体制への移行については前任の寺畑団長からのものであるが、理事者に認めていただけないなら5名のままでよいのではないかと正副団長会議でも出ている。ただし、正副団長5名体制はもうあと10年続けられるかといえば絶対に続けられない。少なくとももうあと5年以内に変えていかないと、消防団の規模からしても頭でっかちな組織になってしまう。他市を見ても同規模の中で正副団長5名という体制はない。安曇野市は一つであるという消防団の考え方であるため、出動態勢を市内3ブロックに分けて、正副団長は計3名でよいのではないかと思うが、そこまで詰めた議論はできていない。

本部3隊の格上げについては、3隊が正副団長を頼ってくる体制を変えたい。自分たちで考え自分たちで動けるようにしたい。もちろん相談があれば乗るが、早くひとり立ちしてほしいという意味である。女性消防隊、本部隊については格上げの要望書を市長あてに提出している。音楽喇叭隊は方針が定まらなかったため、要望書は提出していない。ただし、音楽喇叭隊長は副分団長格だが、非常に激務であるため、隊長を分団長格に上げたいという話が出ている。

消防団の定数見直しについては、安曇野市の人口が減ってきており、2ブロック（明科地域）の人口減少は顕著である。体制の維持はこのままでは厳しい。ただし、体制の見直しは減を先に思ってしまうが、増もあるということを分団長会議の中で自分たちの理想とする定員数を出してほしいと話をし、それを踏まえて消防団にアンケートを取った。現在事務局で取りまとめ中であるため、実際のデータは私もまだ知らない。

団員確保対策委員会からの要望書については、検討委員会自体は寺畑団長の時代から4年やってきたが、そろそろ検討するとしても意見が出尽くしており、毎年同じ意見が出る。今までは正副団長会議の中の資料として取り扱ってきたが、班長以下の若い団員が何を考えているかわかるものであり、市長等を知っていただきたかったため、あえて要望書という形で上げさせていただいた。できるものとできないもの、当然あるかと思う。

丸山委員長：他にないか。自分は消防団車両の更新時期についてだが、当初は消防署の更新時期ののっとなって更新することに決めてきたが、消防署と消防団では使用頻度も使用形態も異なるため、市独自で更新時期を決めることはよいと思う。

また、正副団長3名体制への移行については、実際に過去チャレンジしたことがあり、5人から4人に変えたことがある。ただし、市長が変わった時に、元の体制に戻すことになった。

当時は副団長ではなく方面隊長だったが、方面隊長が出ていない地域の住民から苦情が出たとのことだった。現在の市長が変わらない限り3名体制への移行は難しいと思う。

もう一つ、本部3隊の格上げについては、なぜいけないのだろうか。現場から負担が大きいの意見が出ているため、それに見合った格に上げるということは間違っていないと思う。課長はどう思うか。

古幡課長：詳細を把握していない。大倉主任説明できるか。

大倉主任：文書でも書かせていただいたが、本部3隊の格上げについて、事務局の認識では正副団長3名体制への移行が前提としてあったため、市長から3名体制への移行についてストップがかかった際に、格上げについてもストップしてしまった。

丸山委員長：3名体制への移行と切り離して考えれば本部3隊の格上げについては可能か。

大倉主任：3名体制はそれとして考えるべきであるが、できることから手を付けていくことで、3名体制への移行についてもよい影響が出ると考えている。

松澤委員：本部隊も災害現場へ出る。そういうことを考えると責任を隊長にも持たせるほうが良い。
3名体制への移行もそうだが、団がやりやすいように変えていくのが良いと思う。

金森委員：3名体制への移行をする際には、どのように人選をするかまで考えてからのほうが良いと思う。今まで通り各地域から選出では5名体制と変わらない。安曇野市の今後を考えてより良い方法を検討したほうが良いと思う。

丸山委員長：他にはないか。

金森委員：これだけ検討課題があるのだから、委員会の開催時期について前もってある程度決めていただきたい。例えばここからここまでは8月までに決めましょうなど、事業計画を委員会にも作ってほしい。年に6回くらい会議をやってもいいと思う。解決できない部分もあると思うがきちんとやっていきたい。

曾根原委員：回数を決めるのは反対で、必要があればやればいい。あらかじめ回数を決めてしまうと不要な回も出てくる。ただし、必要があれば5回でも6回でもやってよいと思う。

丸山委員長：今年のような回数ではなかなか解決できないと思う。過去には年間2回という年もあった。必要がなければ回数は少なくてよいが、正式に今回の検討課題のようなものが諮問として降りてくれば、腰を据えてやる必要があると思う。

古幡課長：平成20年に諮問という形で初めてやったが、当時は8項目あった。すべて一括で答申という形ではなく、前回と同じく第1次中間答申という形で出せばよいかと思っている。当時は年間5・6回の開催であった。会議の中で次回はいつごろ開催したいとお願いをしていたので、同じような形でやっていきたいと考えている。

丸山委員長：まずは諮問が出てきてからということになるかと思う。そうでなければただの井戸端会議になってしまう。他に何かないか。事務局も他にないか。

竹内係長：ありません。

丸山委員長：では閉会としたい。